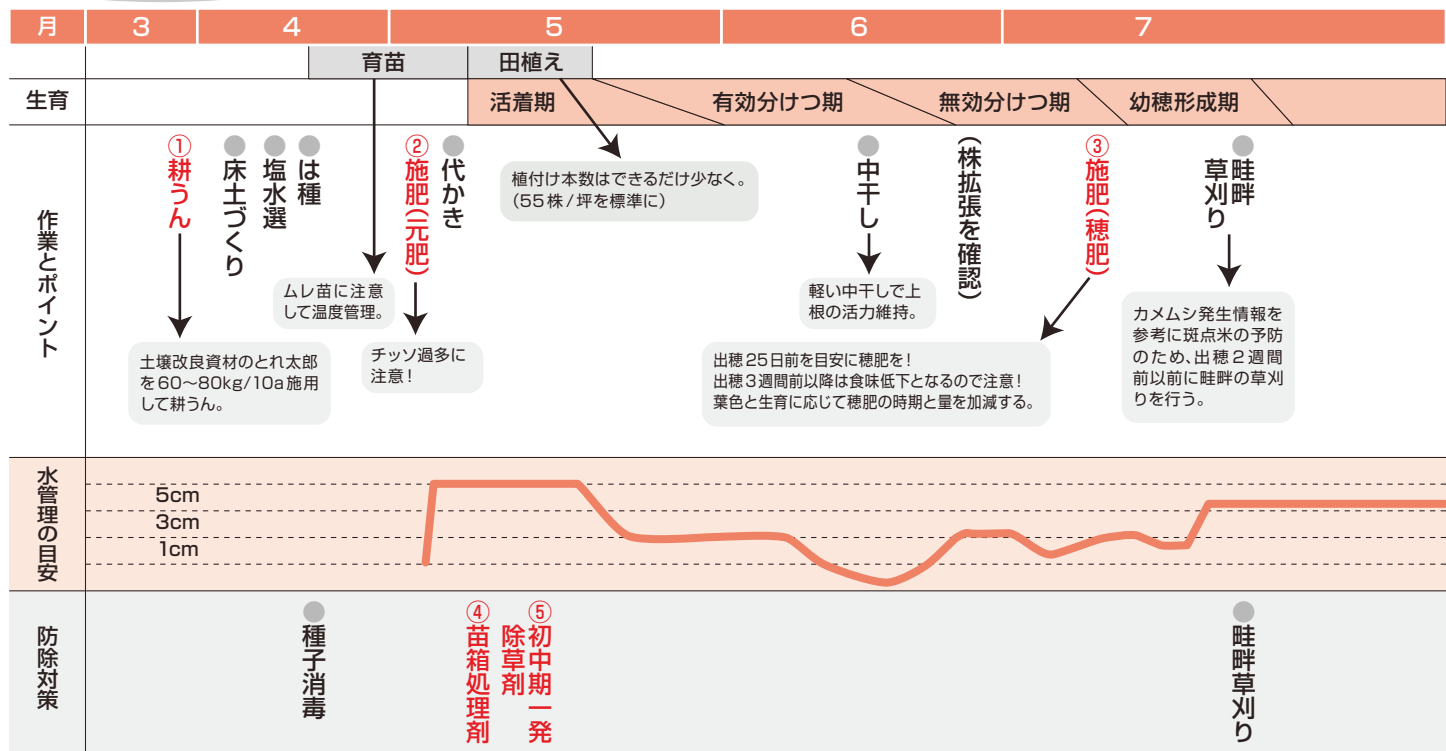


水稻・キヌヒカリ (中山間部)



施肥事例(10a当たり)

① 秋～早春の土づくり

- 稲刈り後、稲わら(生)約500kgと石灰窒素 15~20kgを施用して耕うん。
- 3月にとれ太郎を60~80kgを施用して耕うん。または鉄次郎(又はケイカル) 100kgとようりん 40kgを施用して耕うん。

施肥設計例(春～夏)

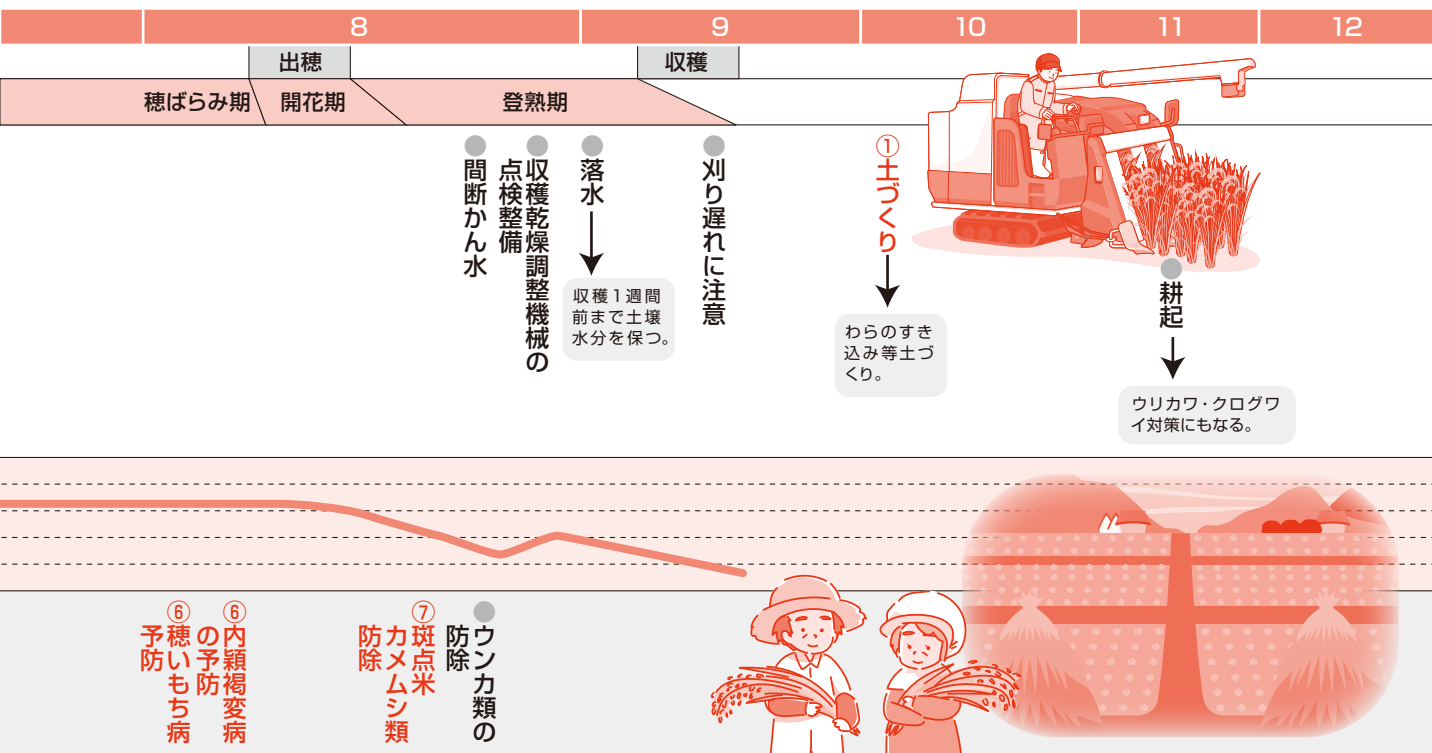
肥料名	項目	元肥	穂肥	成分量		
				チッソ	リンサン	カリ
② 苦土入り化成肥料12-16-14		40kg		4.8kg	6.4kg	5.6kg
③ 化成肥料17-0-17			20kg	3.4kg		3.4kg
計				8.2kg	6.4kg	9.0kg

施肥設計例(元肥一発栽培)

肥料名	項目	元肥	成分量		
			チッソ	リンサン	カリ
② ユーコート202(早生用)		45kg	9.9kg	4.5kg	5.4kg

病虫害防除例

農薬名	項目	主な対象病虫害	使用量	使用時期(収穫前日数)／使用回数
④ サンスパイク箱粒剤		いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類など	50g/箱	移植3日前～移植当日
④ デジタルメガフレア箱粒剤		いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、カメムシ類、ウンカ類など	50g/箱	移植3日前～移植当日 ※カメムシ類は小型カメムシが主体で本田防除は必要
⑥ ブラシン粉剤DL		いもち病、内穎褐変病、もみ枯細菌病、稲こじ病	4kg/10a	21日前まで／2回以内
⑦ スタークル粒剤		カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	3kg/10a	7日前まで／3回以内
⑦ スタークル豆つぶ		カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g/10a	7日前まで／3回以内



除草剤施用例

⑤ 初中期一発処理剤(※いずれか1剤)

農薬名	項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
ジェイソウル 1キロ粒剤		1 kg 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ(2.5葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ミズガヤツリ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ (2葉期まで)、セリ(再生始期まで) 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離(発生前)	湛水散布または 無人航空機に よる散布 ※移植時は田植同時 散布機で施用
エンペラージャンボ		小包装(パック) 10個(500g) 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ(3葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ(3葉期まで)、 ミズガヤツリ(5葉期まで)、セリ(再生始期まで) 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離(発生前)	水深を5cm以上に して水田にパックの まま投げ入れる。 ※移植時は田植同時 散布機で施用
バッチリフロアブル		500ml 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ(2.5葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ (2葉期まで)、クログワイ(発生始期まで) 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離(発生前)	原液湛水散布 または水口施用 ※移植時は田植同時 散布機で施用

初期除草剤(雑草が特に多い場合は、中後期除草剤との体系処理も検討してください)

農薬名	項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
シング乳剤		500ml又は 300ml〔少量散布〕 本剤のみ	①代かき時～移植7日前まで(500ml) ②代かき時～移植7日前と田植直後～移植後30日まで(300ml) 〈田植後に使用する除草剤との体系で使用〉 〔1年生雑草〕ノビエ(1葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕マツバイ、ホタルイ	原液湛水散布

水稻・ヒノヒカリ (平坦部)

月	4	5	6	7	8
生育		育苗	田植え	有効分けつ期	無効分けつ期 幼穂形成期 穂ばらみ期
作業とポイント	① 耕うん ● 床土づくり ● 塩水選 ● は種 ムレ苗に注意して温度管理。 土壌改良資材のとれ太郎を60～80kg/10a施用して耕うん。	② 施肥(元肥) ● 代かき チッソ過多に注意!	植付け本数はできるだけ少なく。(55株/坪を標準に) ジャンボタニシ対策には、田植え後20日間にスクミノンを散布して防除する。	中干し 軽い中干しで上根の活力維持。 出穂25日前を目安に穂肥を! 出穂3週間前以降は食味低下となるので注意! 葉色と生育に応じて穂肥の時期と量を加減する。	③ 施肥(穂肥) (株拡張を確認) 畦畔草刈り カメムシ発生情報を参考に斑点米の予防のため、出穂2週間前以前に畦畔の草刈りを行う。
水管理の目安	5cm 3cm 1cm				
防除対策		● 種子消毒	④ 苗箱処理剤 ⑤ 初中期一発除草剤	夏ウンカ防除	● 畦畔草刈り

施肥事例(10a当たり)

① 秋～早春の土づくり

- 稲刈り後、稲わら(生)約500kgと石灰窒素15～20kgを施用して耕うん。
- 3月にとれ太郎を60～80kgを施用して耕うん。または鉄次郎(又はケイカル)100kgとようりん40kgを施用して耕うん。

施肥設計例(春～夏)

肥料名	項目	元肥	穂肥	成分量		
				チッソ	リンサン	カリ
② 苦土入り化成肥料12-16-14		40kg		4.8kg	6.4kg	5.6kg
③ 化成肥料17-0-17			20kg	3.4kg		3.4kg
計				8.2kg	6.4kg	9.0kg

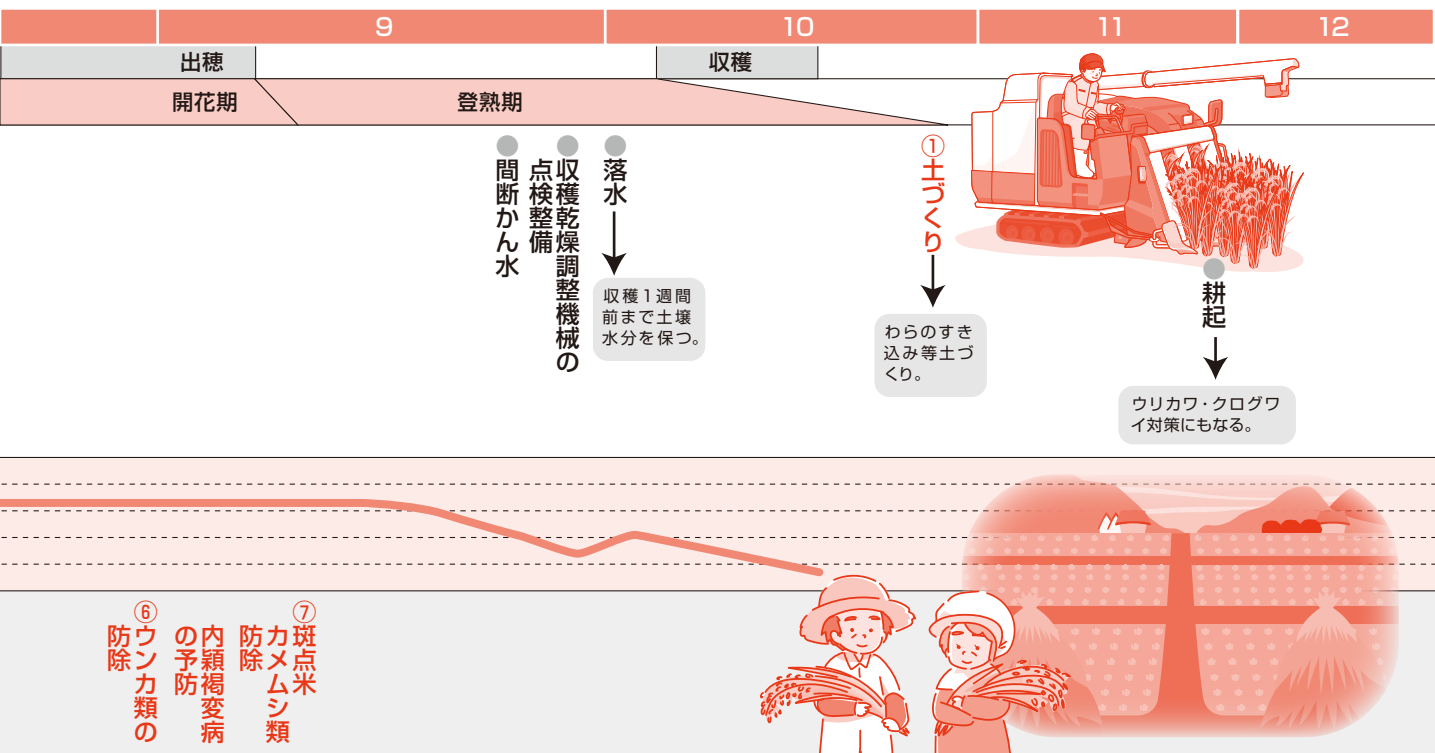
施肥設計例(元肥一発栽培)

肥料名	項目	元肥	成分量		
			チッソ	リンサン	カリ
② ユーコート202(中晩生用)		45kg	9.9kg	4.5kg	5.4kg

病虫害防除例

農薬名	項目	主な対象病虫害	使用量	使用時期(収穫前日数)/使用回数
④ ブーンゼクテラ箱粒剤		イネミズゾウムシ、ウンカ類、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガなど	50g/箱	は種時前(覆土前)～移植当日/1回
⑥ パダントレボン粒剤L(劇)		ウンカ類、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ	3kg/10a	30日前まで/3回以内
⑥ アブロードパダン粒剤(劇)		ウンカ類幼虫、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ	3～4kg/10a	30日前まで/4回以内
⑦ スタークル粒剤		カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	3kg/10a	7日前まで/3回以内
⑦ スタークル豆つぶ		カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250g/10a	7日前まで/3回以内

(劇)は劇物の農薬です。



除草剤施用例

⑤ 初中期一発処理剤(※いずれか1剤)

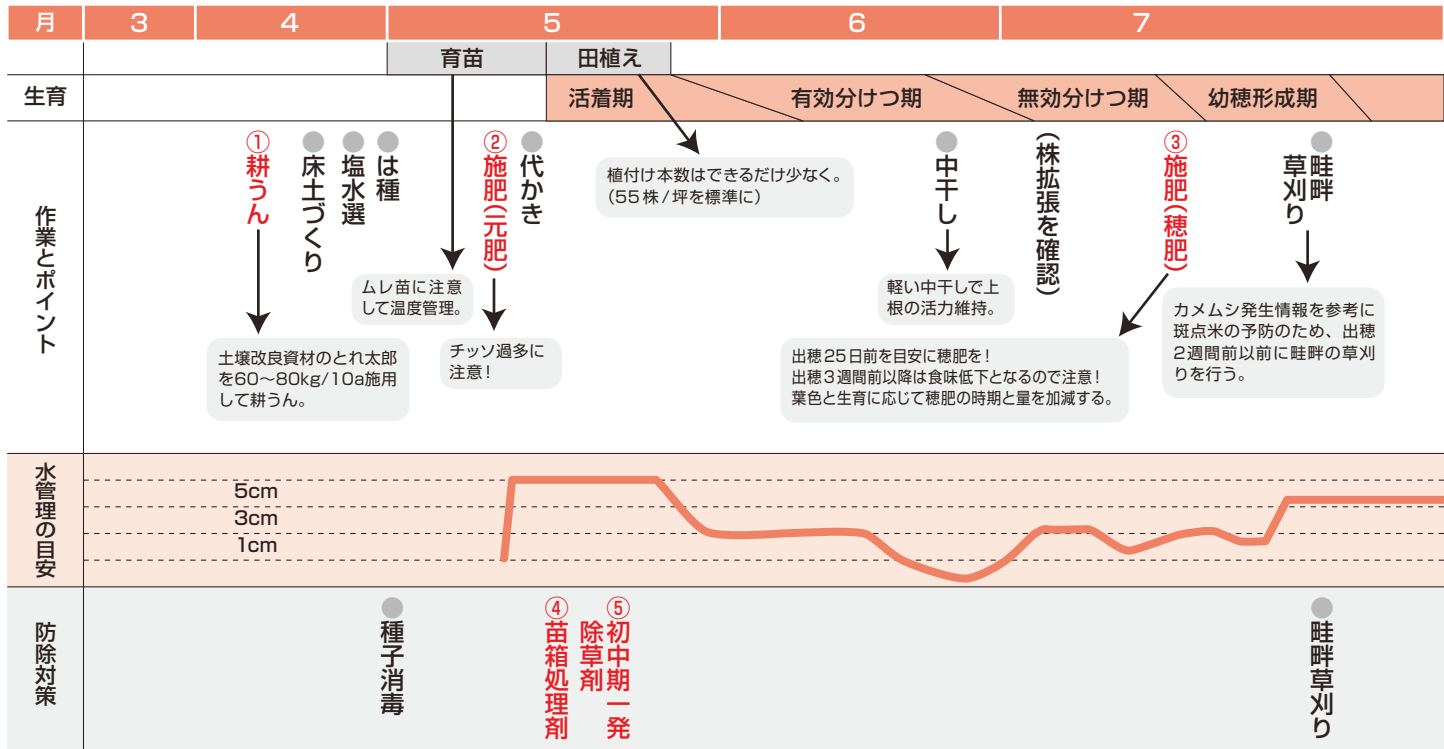
農薬名	項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
ジェイソウル 1キロ粒剤		1 kg 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ(2.5葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ミズガヤツリ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ (2葉期まで)、セリ(再生始期まで) 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離(発生前)	湛水散布または 無人航空機に よる散布 ※移植時は田植同時 散布機で施用
エンペラージャンボ		小包装(パック) 10個(500g) 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ(3葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ(3葉期まで)、 ミズガヤツリ(5葉期まで)、セリ(再生始期まで) 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離(発生前)	水深を5cm以上に して水田にパックの まま投げ入れる。 ※移植時は田植同時 散布機で施用
バッチリフロアブル		500ml 本剤のみ	移植直後～移植後30日まで 〔1年生雑草〕ノビエ(2.5葉期まで)、その他水田1年生雑草 〔多年生雑草〕ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ (2葉期まで)、クログワイ(発生始期まで) 〔その他〕アオミドロ・藻類による表層剥離(発生前)	原液湛水散布 または水口施用 ※移植時は田植同時 散布機で施用

初期除草剤(雑草が特に多い場合は、中後期除草剤との体系処理も検討してください)

農薬名	項目	10a当たり使用量	最適使用時期及び主な対象雑草	使用方法
シング乳剤		500ml又は 300ml〔少量散布〕 本剤のみ	①代かき時～移植7日前まで(500ml) ②代かき時～移植7日前と田植直後～移植後30日まで (300ml) 〈田植後に使用する除草剤との体系で使用〉 〔1年生雑草〕ノビエ(1葉期まで)、その他水田1年生雑草	原液湛水散布

水稻・きぬむすめ(中山間部)

施肥事例はヒノヒカリに準ずる。
病害虫防除例・除草剤施用例はキヌヒカリに準ずる。



水稻・きぬむすめ(平坦部)

施肥事例・病害虫防除例・除草剤施用例はヒノヒカリに準ずる。

